

図書館へいこう！

話題の新着本

『浅草ルンタッタ』

劇団ひとり / 著

行き場をなくした女たちが集う浅草の置屋の前に、赤ん坊が捨てられていた。お雪と名付けられた赤ん坊は、明治から大正へ、浅草の賑わいとともに成長した。楽しみは芝居小屋に通うこと。圧倒的祝祭に満ちた物語。



『裂けた明日』

佐々木譲 / 著

内戦下の日本。追われる母娘に出会った元公務員の信也は、2人を安全圏まで送り届けようと決断。役所勤めの経験を生かし、意外なルートで軍事境界線を突破し…。近未来を舞台に描く、緊迫のハードボイルド小説。



『家裁調査官・庵原かのん』

乃南アサ / 著

庵原かのんは、福岡家裁北九州支部の少年係調査官。罪を犯した少年少女や親たちとの面会を繰り返す中で、やがて彼女は厳しい家庭の事情や社会の現実と直面し…。



『新！店長がバカすぎて』

早見和真 / 著

山本猛元店長が、3年ぶりに吉祥寺本店に店長として復帰した。張り切る店長だが、相変わらず、人を苛立たせる天才だ。しかし京子は、心の中で「お帰りなさい」とつぶやき…。



『嘘つきジェンガ』

辻村深月 / 著

見栄、不安…。ほんの出来心から積み上げてしまった嘘。一線を越えたら、もう戻れない。騙す側、騙される側、それぞれの心理を巧みに描く小説集。



『競争の番人2 内偵の王子』

新川帆立 / 著

九州事務所への転勤を命じられた公正取引委員会の審査官・白熊楓。いわくつきの部署に配属され、慣れない土地での生活に苦しみながらも、内偵業務のエース・常盤と呉服業界の内偵に乗り出し…。



『素晴らしき国』

小路幸也 / 著

豊臣秀吉に仕えた武将の家系に遺されていた一枚の絵。そこに描かれている肖像画とური二つの女性が、この絵を描いたのは後世に明智光秀と呼ばれた人物だと語り始め…。



『ヘルンとセツ』

田淵久美子 / 著

明治23年、ニューヨークから来た作家ラフカディオ・ハーンと、武家の娘として生まれるが、明治維新により困窮の底に沈んでいたセツ。2人の奇跡の出会い・共同作業から「怪談」が生み出される過程をドラマチックに描く。



今月のBEST本（8月の貸出回数上位本）

『流木記』

窪島誠一郎 / 著

戦没画学生作品展示で知られる「無言館」開館25年。満身創痍で傘寿を迎えた館主が、波乱に満ち溢れた自分探しの半世紀を振り返る。



『雨に消えた向日葵』

吉川英梨 / 著

坂戸市の小5の少女・葵が失踪。誘拐か、家出か、事故か。葵が男につきまとわれたという姉の供述を受け、捜査一課の奈良も坂戸市に急行する。情報が錯綜し、家族が焦燥に駆られるなか、執念の捜査で真相に迫っていく。

